



# 自力更生

## 郡農會主催で 近く講演會を

石城郡下各町村にては農村經濟の自力更生を種々研究し既に實行に着手した處もあるので郡農會では來月廿五日頃自力更生に關する講演會を催すべく目下講師を物色中である

## 一日に一擧六千圓

### 豊間大敷網が大漁

石城郡豊間村漁業組合の大敷網は八月に入つて殆んど魚類の水揚げを見られなかつたが昨卅日午後一時頃サバブリ等約三千尾の漁獲を見一日にして六千餘圓の賣上あり同海岸は非常な賑ひを呈したと

## 内郷村で 梨の品評

石城郡内郷村梨出荷組合では明九月一日より組合員の栽培する梨の立毛品評會を開催するので郡農會青山技手が審査員として出席する

## 組頭排斥問題に 鈴木町長乗出す

### 小名濱町の紛争

既報石城郡小名濱町消防組の組頭排斥問題は紛争益々猛烈となつたので斯くは町の體面にも關ると町長鈴木榮氏が仲裁に乘出し目下調停中である

## 土木協議

### 平町の委員會

平町役場では來月上旬頃町會議室に於いて土木委員會を開催し田町地内町有土地の拂下げ並に新川端左側櫻樹で通行に差支へを生ぜしむる樹の切除其他に就いて協議を行ふと

## 磐城梨の 東京進出

### 郡農會協議

石城郡農會では來月三日午後一時より園休事務所にて於いて果樹組合長會議を開催し梨産地の研究並に東京出

## 木炭を焚く

### 自動車も運轉

#### 木炭瓦斯の實演當日に

既報濱三郡木炭組合の木炭瓦斯發生機實演當日は特に木炭瓦斯自動車發動機の運轉を行つて一般自動車營業者に觀覽せしめる事となつたが最近一ガロン四十錢のものに六十錢に上騰した際として自動車營業者間にも相當期待して居る向が多いと

## 蕪市況 (日卅)

### △四倉市場

(白蕪)千四百七十貫(最高) 四百五十圓(最低) 三十三圓五十錢(蕪)四十一圓八十錢

### △植田市場

(白蕪)二百五十貫(最高) 三十九圓二十錢(最低) 三十五圓(蕪)三十七圓九十錢 (黃蕪)三百二十五貫(最高) 四十圓(最低) 三十五圓(蕪)三十七圓九十錢

荷に關する打合せ會を催す

〇「むにあ、とキャラメルをかみしめる音がする」  
彼方百米前方の柳の下に鐵鎧を被はつて風の音と川の流れを見のかすまいと緊張した黒い姿が動いてゐる無氣味な光景だ。  
突前宿舎前方の關を破つて、銃聲がドド、ドド、と聞出し出した。又友軍の應戦らしい重機、曲射砲も物凄しい音をたてた。  
匪賊の襲來だ四方を警備せよ匪賊は包圍するかも知れぬと上官の聲は關に響いた柳の下に立哨中のAは柳の下に伏して前方を幾度と無く蝶の動きも草の動きも注意を注いでゐる、飛來する彈丸はビュー、と頭上を掠めて足下の草に又は柳の枝は彈に貫かれ「バサリ」と頭上に降りかゝる本當に良い氣持はしない此度は彈にやられるかも知れぬと覺悟はしてゐた。友軍は

## 市原醫院

平町 田町 電話一四四番

途中幾度かの匪と交戦を爲し、文字通り身體は綿の如く疲れ、兵は臭い支那家屋の酒を頂戴して故里の夢を見ようとして居る。青く澄んだ更けやらぬ空には星が輝つてゐる故里を偲ぶに充分なる「パノラマ」だ。  
夜間設備を爲した伏射散兵壕に一ヶ分隊を布いて警備を爲してゐる。  
A 「煙草を吸ふと遠くから見えるぞ」  
B 「拾時半だ、なほ良い月夜だ、今頃家ではまさかこんな處で星を眺めて土間に寝てゐるとは思はなだらう」

磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は生命なり

紅、そして青の灯の下に  
美女のくむ緑酒を知り御身よ  
さらば来り召せ  
吾が世界のハレムベ。

美しのオアシス世界の麗女は  
いと久しく御身の來るを  
心して待てり……。

CAFE SEKAI  
カキイ奇界

## 漆器は 共が専門

品質の正確と!!!  
値段の破格と!!!  
在庫品の豊富と!!!  
懸命の奉仕は!!!  
弊店のモットー!!!

## 丸共共榮漆器店

平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)  
記念表彰品。恩賜賞與品。  
進物贈答品。賞品景品類。御注文應調製  
店員募集 (十三才ヨリ二十二才マデ)

# 明日は震災九週年

午前十一時五十八分を期して  
お互ひに黙禱しませう

## 電話の呼出しは

### 必ず番號で

交換能率増進の爲め

## 平局の希望

電話交換の進行如何は電話加入者の仕事の上に多大なる利害關係のある事であるが郵便局としては迅速、正確、丁寧、親切をモットーとしてこれが

### 改善に

不斷の努力を拂ひつゝあるも、圓滑なる交換の運行は一人郵便局の仕事ばかりでなく一般加入者の電話に對する理解と援助とを必要とする、その一端として元來市内、の申込みは必ず電話番號でなす事

## 豚コレラ遂に

### 平町に傳波

#### 直ちに撲殺

昨報豚コレラは遂に本日平署のお膝元たる平町に發生を見るに至つた右は新川町荒川清氏が堤ノ内地内で飼育する一頭で直ちに撲殺したが流石に豚コレラの傳染

係官も舌を巻く  
力の早いのは係官も驚いて居る  
店員と逃げた  
女房の搜索願  
宮城縣仙臺市土橋小路化粧

品小賣業善妻義輔の妻春代(三)は本月廿日同家の店員石城郡赤井村字高萩生れ吉田三郎(三)と手を取り合つて行衛を晦して了つたが兩名は東京見物をなし其後石城郡内郷村方面に潜伏して居る事を聞き本日亭主より

## 無情な夫の

### 行衛を探して

#### 歩く内に無一文

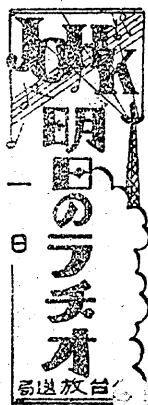
新潟縣岩船郡八幡村字大石前出シヅ(三)は廿日午前十一時頃平署に旅費の貸與を願ひ出たので係官が事情を聞くと同人の内縁の夫石井武(三)は去月廿五日家出した爲めシヅは生れたばかりの女兒を抱へて夫の行衛を尋ねて居るうち最近夫は茨城縣多賀郡助川町旅館東院館方で働いて居る事がわかり同地に向ふ途中平町で無一文となつて願出たものである

## 一千圓横領

### 集金員を取調べ

平町白銀町中田惣治(三)は昨年十一月より平驛前牛乳搾取業鈴木久吉方に集金員として雇はれ中千二十餘圓を横領費消して居る事發覺し目下平署で取調中である

去るもの  
來るもの  
秋風と渡り鳥  
鳥達の仲間では九月に入ると渡り鳥といつて日本の國を去ると日本の國



明日のラジオ

明日は南東の風  
午前曇り驟雨  
氣味午後にはよくなる

## 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 管絃樂 東京ラヂオオーケストラ 指揮奥山貞吉
- 後六、三〇 山と海の講座 解説野村光一
- 後六、三〇 山と海の講座 「石鎚山及其の姉妹の山々」 藤島信太郎
- 後七、三〇 大衆演藝の夕 「萬才浪米はなし」 千代廼

平署に搜索願を出して來た

## 明日の部

- 前六、三〇 家庭教育講座

「子供の生活の見方」 廣島文理科大学教授 博士 久保良英  
前七、〇〇 エスベラント講座(十五) 日本エスベラント學會國際常設代表 藤野太郎  
前九、一〇 震災記念九年祭追悼法要状況 本所震災記念堂より中継  
前一、一五 打鐘「三點」 本所震災記念堂より中継  
後〇、〇五 吹奏樂 陸軍戸山學校軍樂隊 指揮 長伊藤隆一  
後二、〇〇 婦人講座「職業婦人に就て」 市川源三

後五、三五 講演「交通安全運動に就て」 宮城縣警察部長鈴木登  
後六、〇〇 子供の時間 お話 山室軍平  
後六、三〇 夏期英語講座 二十三 鹽谷榮  
後七、三〇 講演「新興日本の建設へ」 首相官邸より中継 内閣總理大臣齋藤實 農工大臣中島久 萬吉 農林大臣後藤文夫  
後八、三〇 獨唱「新日本建設の歌」 吉田二郎  
後八、五〇 連続浪花節 「水戸黄門記」 第一席 春日亭清吉  
後九、三一 滿洲より

- 賣上の二割給(平町某)
- △看護婦見習 十七以上 高卒 給料面談(平町某)
- △女中 十八以上 尋卒 給料面談(平町某醫院)
- △求職の部
- △菓子見習 十六才 高卒
- △魚屋 二十七才 尋卒 給料面談(仙臺市某)
- △下駄職見習 十六才 高卒 給料面談(磐崎村某)
- △洋裁見習 十七才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △魚屋 二十七才 尋卒 給料面談(仙臺市某)

毎度御ひいき

有難ふ御座ります

うなぎの御用命は

# うなぎ 奴

平町田町(電話二二三番)  
ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

## 耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町(電話一七〇番)

# 大和田醫院

# 幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第三百九席

女流劍客里見靜枝

三人の不良浪人

立花侯の供方へ暴れ込ん  
だ若い者二十三人、折しも  
通りかゝりし武家が狼籍い  
たすナ其處退けと云ひなが  
ら刀を引抜いて躍り込み二  
三人をそれへ峰打ちにいたし  
た

○「ヤア抜いた〜」

とバラ〜四方へ散る、

武家は其奴等を追駆け其内  
の持つて逃る槍を取上げて  
其奴を蹴倒した、ところへ  
立花侯の供頭宮本佐伸と云  
ふ者が参つて

宮「これは〜お手敷を煩  
はし何共恐縮いたした」

武「大切なお道具を町人共  
の手に渡しては御恥辱にも  
なる、依て彼等を懲して取  
戻しました」

宮「御厚志忝く存する」

武「就いては町人共を取押  
へてこれを町方見廻りの役  
人共に引渡しますと此事表  
沙汰になり御道具を奪はれ  
た事も自然知れ渡たり御家  
にとつて不面目の至り、依  
てこれは御内聞になされる  
方が、お爲めかと存じます  
る」

宮「イヤ、仰せ御尤もこれ  
は供方の者に行届かぬとこ  
ろがござる、仰せの如く内

聞に致すでござらう」

武「それが宜しからう、イ  
ヤもう初春の事で祝酒に食  
べ酔ひそれが爲にこのやう  
な狼籍を催しし事と存じ申  
す」

宮「御尤も、酔漢を相手に



訴を起すも大人氣なき事、  
シテ其許は何れの御藩士で  
ござるか」

武「手前は浪人にて長谷部  
傳藏と申します、今日は知  
己の許に年頭を参つたその  
戻り」

宮「ハ、ア左様か、自分は  
立花の家臣にて宮本佐伸と

申す、御徒町上邸に居りま  
す、猶又其許の御住所は、  
傳「イヤ拙宅へお越し下さ  
れては却て迷惑何れ當方よ  
りお訪ね申すでござらう、  
大きに御無禮致した、これ  
にて御免を蒙る」

と會釋して此者は筋違見  
附の方を指して行く、宮本  
佐伸は槍を槍持に渡し與に  
附そつて御徒町の邸に戻つ  
て、先づこの騒ぎは表沙汰  
にならず穩かに済みました

これから五日ほど過つて佐  
伸の許へ訪ねて来たは長谷  
部傳藏、茲で佐伸は先日の  
禮を述べて馳走いたし、段  
さるやう」

傳「未熟者ではござります  
るが初心の方のお相手を致  
す事はどうやら出来るで  
ございませう」

佐「イヤもう貴公ほどの技  
倆であれば指南番といいた  
すも差支ないが長く當家に出  
入りいたして若侍に教へ居  
る者もあればそれを斷わる  
こともありますまい、先づ  
其者の師範代といふ名義で  
御奉公の成るやう御世話致  
すであらう」

傳「どうぞ宜しくお取計ら  
ひ下さいまし」

傳藏大喜び此者の住居は  
麴町貝坂、そこに自分と共  
に上杉家を浪人した秋田丈  
助、籤下平八も居る、生活  
上今では刀の柄巻きをして  
ゐる、それでは足りない時  
は三人揃つて町方の道場を  
押して歩いて試合を申込み  
先生を打掃えて酒を飲み又  
肴代を食る、性質は甚だ下  
劣ではあるが三人とも技倆

今年十三歳になる當家の伴  
に劍術を教へる、誠、稽古  
のつけ方が上手です、  
佐「長谷部殿、あなたも永  
く浪人を致して居つては世  
に出る頼りもござるまい、  
食祿に望みがなくば自分が  
御推舉いたすが、當家へ仕  
へてはどうか」

傳「それは有難い事にござ  
います手前如き無能の者に  
ても御奉公が成らば犬馬の  
勞も厭もせん」

佐「その思召ならば重役共  
に話して置ませう、猶又  
貴公は指南役の代理として  
若き人々に劍法を御指南下  
さるやう」

は出来てゐる、藝には別才  
があるとか申す事もあれば  
こんな品性劣等な奴がどう  
して技が出来るか不思議で  
す。

傳「酒はあるか」

平「酒は無い」

傳「無ければ三河屋から取  
つて参れ」

平「何んだ、三河屋から取  
つて参ると、馬鹿な事をい  
ふナ、番頭や手代が店に並  
んでゐる、其目をくらまし  
て取つて来る事は、出来ぬ  
ぞ」

傳「コレ盗んで参れと云ふ  
譯では無いぞ、買つて來い、  
平「それは盗むより猶もつ  
かしい」

は出来てゐる、藝には別才  
があるとか申す事もあれば  
こんな品性劣等な奴がどう  
して技が出来るか不思議で  
す。

## 内小兒科・花柳病科 藤沼醫院

入院應需 平南町 電話七〇七番

## 耳鼻咽喉科専門 大和田醫院

平南町 電話一七〇番

## 御會葬御禮

八月三十一日

平町二丁目

谷口トヨ

### 玉屋洋品店

平南町通電話五五六番

## 耳鼻咽喉科専門 増田醫院

平南町 (電話四二八番)

## 外科 X光線科 性病科

入院隨意

## 安齊外科醫院

平南町 電話四七五番